

宇宙総合学研究ユニット

NEWS 2023年12月号



SEEPの受講生を紹介します！

受講生紹介の第5弾です！今回は、今年度からSEEPに参加してくださっている平田真唯さん（奈良女子大学・生活環境学部食物栄養学科4年）に自己紹介文を寄稿して頂きました！

平田 真唯さん

（奈良女子大学 生活環境学部食物栄養学科4年）

奈良女子大学生生活環境学部食物栄養学科4回生の平田真唯です。宇宙倫理学教育プログラム（SEEP）に一般受講生として参加しています。私は管理栄養士養成施設である奈良女子大学で食物栄養学を学び、所属するゼミでは、米粉を使用したグルテンフリーパンの研究を行っています。以下では、SEEPを受講している理由、受講してからの変化についてお話をさせていただきます。

「管理栄養士を目指している学生がなぜ宇宙倫理に？」と思われる方も多いと思いますが、宇宙開発が進んでいく中で、宇宙での暮らしを考えると切っても切り離せないのが「食」です。栄養を取るためにも重要ですが、食には様々な役割があり、体だけではなく、心の栄養にもなるものです。将来、人類が宇宙で生活する際、どのような食事がQOLを向上させ、生活を豊かにするのかに興味を持っており、そういった観点から宇宙開発を考えたいと思い、このSEEPに参加させて頂きました。



もともと宇宙に関心があり、宇宙開発に携わりたいと思ってはいたのですが、知識がほとんどなく、ましてや倫理学に触れたことがなかったので、一からの勉強でした。それでも、基礎的な知識は講義で補っていただき、様々な分野からいらしゃった受講生の皆様の発表に刺激を受けて、宇宙×倫理の面白さを理解し始めているところです。これまで倫理を意識したことはほとんどありませんでしたが、全てのことに倫理はあるというお話を聞いてから、普段の生活やニュースなどでも倫理を意識するようになりました。まだ、「宇宙と食」をどのように倫理学に落とし込んでいくのか検討中ですが、幅広い分野の方々と宇宙倫理について議論できる機会を得たので、あともう一年かけて今私の中にある宇宙倫理の種を、育てて、料理していければいいなと思います。

1年はあっという間に過ぎていきましたが、この一年間は私にとって学びがつかない一年でした。私の宇宙に対する認識が、たくさんの分野の方と出会って、大きく広がったのは間違いありません。貴重な機会を頂けて、心より感謝しております。来年もよろしく願いいたします。

SEEPにおける宇宙倫理学演習の紹介

高口和也

(文学研究科博士後期課程、SEEP リサーチアシスタント)

2023年度後期の宇宙倫理学教育プログラム（SEEP）では、月曜5限に宇宙倫理学演習を、同5限に宇宙倫理学ゼミ（受講生による研究進捗報告）を開講しています。演習では、受講生に二人一組のペアになって頂き、Daniel Deudneyの著書『Dark Skies: Space Expansionism, Planetary Geopolitics, and the Ends of Humanity』（2020, OUP）の特定の章を各ペアに割り当てて要約を発表してもらい、それを踏まえて全体でのグループディスカッションを行なっております。また、本年度はこのようなプログラムに加えて、倫理学・政治哲学の理論に関する3つの講義をそれぞれ鈴木英仁氏（文学研究科博士後期課程）、伊勢田哲治氏（文学研究科教授）と高口和也（筆者）が行いました。今回のコラムでは、その講義内容について簡単にご紹介します。

宇宙開発において生じる倫理的な問題として、国家の膨大な資金を宇宙開発に利用してよいか、宇宙開発を通して得た資源はどのように活用および分配すべきか、といった問題が挙げられます。様々な論点を含んでいますが、これらの問題に取り組むためには共通して、国家や共同体がいかなる倫理的な価値観を共有するべきかという根本的な問いに立ち返る必要があるかもしれません。すなわち、国家が保有する資金はどのような目的のために利用されるべきか、国家の活動によって得た利益はどのように分配すべきか、という政治哲学と呼ばれる分野の基本的な問いがこれら宇宙倫理の問題の根底にあるというわけです。

そこで3つの講義では、政治哲学分野を中心に取り扱いました。鈴木氏の講義では、個人の所有権や経済的活動の自由を最も重視する古典リベラリズムについて、伊勢田氏の講義では、ロールズの『正義論』を中心に、自由という枠組みの中に平等という価値が埋め込まれた現代リベラリズムについて講義して頂きました。そして筆者は、ロールズの議論がきっかけとなって発展した分配的正義における平等主義と、それに異議を唱える分配理論について解説いたしました。それぞれの講義の内容をここで詳しく書くことは分量的に難しいですが、分配的正義に関する議論の全体像について少し説明したいと思います。

ある資源が国家の手元にあるとき、それをどのように人々に分配するのが正義に合うのでしょうか。1つの考え方として、全ての人と同じ量を等しく受け取ることが正しいというものがあります。これはいわゆる平等主義的な発想であると言えます。一方で、功利主義者はこのような分配の仕方に異議を唱えるでしょう。古典的な功利主義者は、全体の福利の最大化が正しい分配だと考えます。したがって、資源を得ることによって大きな福利を得る人々に分配すべきだと考え、場合によっては資源を全く手にすることができない人がいても、それが全体の福利の最大化につながるのであれば構わないと判断します。しかし、我々は資源の分配を考えると、人々が同じ量を受け取ることや、全体の福利を最大化することにだけに道徳的な重要性を感じるのでしょうか。むしろ、資源が足りていない人に対する配慮が重要だと感じるのではないのでしょうか。このような着眼点から優先主義という立場が台頭してきます。優先主義は、絶対的な基準に照らして暮らしの向きが悪い人に注目し、そうした人々の福利の向上に道徳的な重要性を与えます。したがって、優先主義者は、平等主義者が関心を寄せる「等しさ」に価値を見出しません。

ここでは、3つの立場（平等主義、古典功利主義、優先主義）を簡単に紹介しましたが、どの立場に皆さんは共感されるでしょうか。もし、優先主義者の立場に立つのであれば、国家の資源は宇宙開発よりも、地球上で生じている貧困問題に利用すべきという結論になりそうに思われます。しかし、宇宙開発がどのような目的で、どのような人々に利益をもたらすのか、という視点を加えれば、正当化できる余地もあるかもしれません（例えば、特定の疾患の研究や創薬のために宇宙開発を行うなど）。いずれにせよ、このような倫理的な価値観の対立が宇宙倫理学的問題の基礎にあることがわかるかと思えます。

SEEPでは、今回のコラムで紹介したもの以外にも様々な宇宙倫理学的問題を扱っております。参加者である受講者・講師・リサーチアシスタントの多くがそれぞれ異なった学問分野を専攻しているため、議論の内容は文系と理系をまたいで多岐にわたり、非常に有益なプログラムが開講できていると実感しております。来年度の新規受講者募集の詳細は現時点では決定していませんが、ご興味のある方はぜひ宇宙ユニットのウェブサイトなどで情報を追ってご応募いただければと思います。

今後の宇宙学セミナー・関連イベントなど

日時	内容	開催場所
2024年2月 10日・11日	第17回宇宙ユニットシンポジウム (詳細は下のポスターを参照)	京都大学 国際科学イノベーション棟 5階 (吉田キャンパス本部構内)

※宇宙学セミナーの詳細は随時 Web ページ (<http://www.uss.s.kyoto-u.ac.jp/seminar/>) で公開いたします。

第17回宇宙ユニットシンポジウム「人類、火星に向かう」

2024年 京都大学宇宙総合学研究ユニット 第17回シンポジウム

人類、火星に向かう

【会場】 京都大学 国際科学イノベーション棟5階 (吉田キャンパス本部構内)

2.10(土) 13:00~17:00
ポスター展示交流会「宇宙研究の広場2024」

2.11(日) 13:00~17:00
講演セッション
倉本 圭 (北海道大学)
速水 聡 (宇宙航空研究開発機構)
岡本 慎平 (広島大学)
パネルディスカッション

参加無料・事前申込が必要です
ポスター発表と参加の申し込みはウェブから
<https://www.uss.s.kyoto-u.ac.jp/symp-17th/>

主催○京都大学宇宙総合学研究ユニット
共催○京都大学大学院理学研究科附属天文台、京都大学大学院総合生存学館 SIC 有人宇宙学研究センター
後援○京都府教育委員会、京都市教育委員会、宇宙航空研究開発機構 (※申込みを要します)
当シンポジウムは文部科学省宇宙航空科学技術推進課長官「物理学を基盤とした宇宙人材育成プログラムの開発と実践」および「国家の有人宇宙活動を支える宇宙医学人材育成プログラムの創出」による支援を受けて開催されます。

宇宙ユニットの活動やイベントについては、下記サイトをご覧ください。また、宇宙ユニットや本 NEWS に関する皆様のご意見等も気軽に下記メールアドレスまでお送りください。

京都大学 宇宙総合学研究ユニット

<https://www.uss.s.kyoto-u.ac.jp/>

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 吉田キャンパス北部構内 北部総合教育研究棟 507 号室

編集人：高口和也 (宇宙ユニット RA)

Tel&Fax: 075-753-9665 Email: uss.s@kwasan.kyoto-u.ac.jp